

## 令和7年度

### 音楽学部総合型選抜入試 プレゼンテーション試験実施概要

令和7年度総合型選抜では、9月28日に専攻試験、9月29日にプレゼンテーション試験と面接試験を予定しています。プレゼンテーション試験の実施概要は下記の【全体留意事項】に加え、受験を希望する専攻の概要をお読みください。

出願時に提出の「プレゼンテーション形式申告書」でパソコンの使用を申告した受験者は、9月28日の専攻試験ののち、データの取込みとパソコンの動作確認を行います。

また、CD音源を使用する受験者についても、再生機器の動作確認を行います。詳しくは下記の要領を参照してください。

#### 【全体留意事項】

- ・発表に用いるパソコンは本学で用意します（OSはWindows10 ProまたはHomeです）。
- ・提示物や紙媒体（スケッチブック等）の使用も可能です。ただし、3m程度離れた距離からでも目視または読めるサイズとしてください。資料配布は不要です。
- ・プレゼンテーションで実施できる方法は「プレゼンテーション形式申告書」の「プレゼンテーションの実施方法」を参照してください。プレゼンテーション（発表）方法は自由です。
- ・試験当日、試験会場で受験者以外の者がプレゼンテーションの準備等を行うことは認めません。

#### 【パソコンを使用する受験者】

（試験前準備）

- ①プレゼンテーション用に作成したデータは、事前に「受験番号+プレゼンテーション資料」と名前をつけてUSBメモリに保存し、9月28日に持参してください。データの形式は.pdf（文書ファイル）または.pptx（Power Point2007以降）に限ります。
- ②データは各自で事前に2部プリントアウト（印刷）してください。そのうち1部は、パソコンの事前動作の確認時に立ち会っている教員へ渡してください。残りの1部は、パソコン等に不具合が生じた場合に備え、試験当日に持参し自らの発表資料としてください。印刷の際のレイアウトはA4用紙1ページあたり1スライドとしてください。

（試験初日：9月28日）

- ① 専攻試験（実技または口述試験）終了後、専攻別に定められた場所へ移動して必ず動作確認を行ってください。
- ② 教室内の立ち会い教員にプリントアウトした1部を渡し、指示に従ってデータの取込みと動作確認をします。  
※リハーサルではありません。動作のみを確認できます。
- ③ 作業が完了したら教室を退室します。パソコンの事前確認は終了です。

**【CD音源を使用する受験者】（音楽文化専攻・琉球芸能専攻）**

（試験前準備）

伴奏用CDは、演舞等で使用する音源のみが入っているものを準備してください。また、一般的なメディア機器で再生できることを確認しておいてください。

（試験初日：9月28日）

- ① 専攻試験（実技または口述試験）終了後、専攻別に定められた教室へ移動して必ず動作確認を行なってください。
- ② 教室内の立ち会い教員の指示に従って、デッキにセットし音源が正しく再生されるかを確認します。  
※リハーサルではありません。動作のみを確認できます。CDは預かりません。
- ③ 作業が完了したら教室を退室します。CD音源の事前確認は終了です。

## <音楽表現専攻>

### ■プレゼンテーションの内容・テーマ

「あなたがこれまで取り組んだ活動の中で、興味を持ち調べたこと」について、プレゼンテーション形式で5分以内にまとめて発表すること。

#### 留意事項

- ・プレゼンテーションは、5分以内におさまるように準備をしてください。
- ・楽器演奏、歌唱、演舞を含まず発表を行ってください。
- ・試験室入室後、速やかに準備が行えるように備えてください。
- ・試験当日になって試験室のパソコンの使用を申し出ても使用することはできません。
- ・プレゼンテーションに必要な資料・物品（制作物、電子機器、楽譜、書籍、賞状、提示物としての楽器ほか）は試験室に持ち込んで構いませんが、受験者本人が持ち運びできるものとしてください。

### ■実施方法 ※試験室に入室したら、試験官の指示に従って、次のとおり進めてください。

#### <入室前>

- ・発表内容がまとめられているもの（原稿・メモ）の持ち込みは可能です。

#### <入室から試験の流れ>

- (1) 補助員が受験番号を試験場に告げたのち、受験生は入室してください。
- (2) プレゼンテーションの準備
  - ・提示で用いる物品などは、指定された机の上に置いてください。
  - ・模造紙等の作成物を掲示して発表する場合には、室内のホワイトボード（または黒板）を利用し、速やかに掲示を受験者自身で行なってください。
  - ・パソコンを利用して発表する受験者は、自分の受験番号のフォルダをクリックし、発表スライドの最初のページを開いてください。
- (3) 準備完了の確認

発表準備ができたなら、試験官に準備ができた旨を伝え、試験官の指示に従って、受験番号とプレゼンテーション（発表）のタイトルを口頭で伝えてください。

#### プレゼンテーションの開始（5分以内）

試験官の「はじめてください」から試験時間をカウントします。パソコンを使用している際に機器トラブル等があった場合は、慌てず持参した発表資料を使用してプレゼンテーションを続けてください。その際、トラブルに対処している間は、発表時間を含めません。発表できる準備が整い次第、再開します。

#### プレゼンテーションの終了

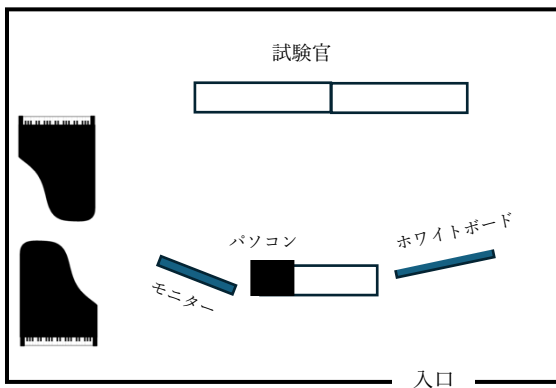
- ・持参したものを速やかに片付けて、退出してください。
- ・パソコンを利用して発表する受験者は、使用したファイルを閉じた後、退出してください。

## ■実施に当たってのルール

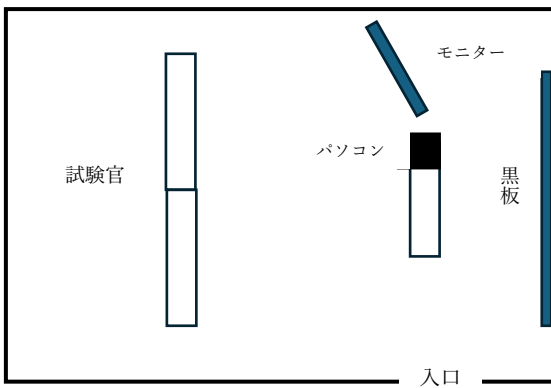
- ・試験は下記のような部屋で行います。
- ・室内の備品で利用できるものは、机1台、ホワイトボード（または黒板）です。
- ・プレゼンテーションを開始して5分後に終了の合図があります。合図がありましたら直ちにプレゼンテーションを終了してください。

(試験室の例)

試験室 A



試験室 B



※電源は使用できません。

※レイアウトは変更になる可能性があります。

## <音楽文化専攻>

### ■プレゼンテーションの内容・テーマ

「あなたの興味のある音楽文化」について、プレゼンテーション形式で5分程度にまとめた発表をすること。

#### 留意事項

- ・プレゼンテーションは、5分程度におさまるように準備をしてください。
- ・楽器演奏、歌唱、演舞を含む発表も可能です（「演奏・演舞に関する注意事項」参照）。
- ・試験室入室後、速やかに準備が行えるように備えてください。
- ・試験当日になって試験室のパソコンの使用を申し出ても使用することはできません。
- ・プレゼンテーションに必要な資料・物品（制作物、電子機器、楽譜、書籍、賞状、楽器ほか）は試験室に持ち込んで構いませんが、特に楽器は、受験者本人が準備し、持ち運びできるものまでとします。

### ■実施方法 ※試験室に入室したら、試験官の指示に従って、次のとおり進めてください。

#### <入室前>

- ・発表内容がまとめられているもの（原稿・メモ）や演奏、歌唱で使用する楽譜の持ち込みは認めます。

#### <入室から試験の流れ>

- (1) 補助員が受験番号を試験場に告げたのち、受験生は入室してください。
- (2) プレゼンテーションの準備
  - ・提示で用いる物品や楽器などは、指定された机の上に置いてください。
  - ・模造紙等の作成物を掲示して発表する場合には、室内のホワイトボードを利用し、速やかに掲示を受験者自身で行なってください。
  - ・パソコンを利用して発表する受験者は、自分の受験番号のフォルダをクリックし、発表スライドの最初のページを開いてください。
  - ・演奏のための短い音出しや調弦の微調整は、1分程度以内にしてください。
- (3) 準備完了の確認
  - 発表準備ができたなら、試験官に準備ができた旨を伝え、試験官の指示に従って、受験番号とプレゼンテーション（発表）のタイトルを口頭で伝えてください。

#### プレゼンテーションの開始（5分程度）

試験官の「はじめてください」から試験時間をカウントします。パソコンを使用している際に機器トラブル等があった場合でも、慌てず持参した発表資料を使用しプレゼンテーションを続けてください。持ち込んだ機器等にトラブルが発生しても、プレゼンテーションの試験時間の延長等はいたしません。

#### プレゼンテーションの終了

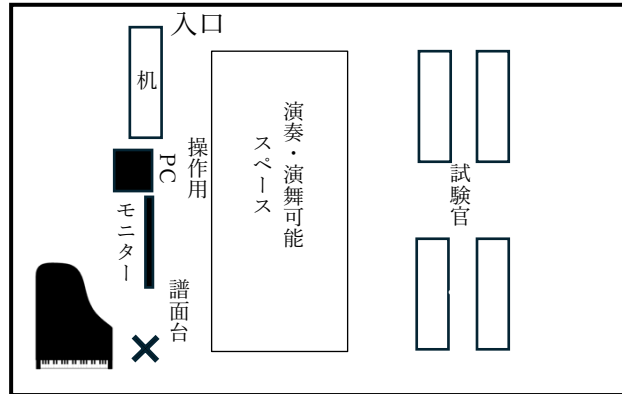
- ・5分程度を超過した場合には、合図がありますので速やかに終了してください。
- ・持参したものを速やかに片付けて、退出してください。

- ・パソコンを利用して発表する受験者は、使用したファイルを閉じた後、退出してください。

## ■実施に当たってのルール

- ・試験は通常の教室で行います。
- ・室内の備品で利用できるものは、机1台、ピアノ、譜面台のみです。

(試験室の例)



※電源は使用できません。

※受験生の発表内容によって試験室のレイアウトは変更になる可能性があります。

### [演奏・演舞に関する注意事項]

- ・発表中に演奏・演舞を行う場合には、2分以内とします。ただし、2分を超える演奏曲を準備して構いませんが、曲の途中でカットの指示を出します。
- ・演奏、歌唱による発表で使用する楽器は、コンセントから電源供給を必要とする電子機器・機材は認めません。
- ・舞踊等で伴奏音源を用いる場合には、前日に起動の確認ができた CD 音源のみ使用を認めます。
- ・伴奏者・共演者の同伴は認めません。大学でも用意いたしません。

## <琉球芸能専攻>

### ■プレゼンテーションの内容・テーマ

「専攻試験で演奏・演舞した〈課題曲〉または〈自由曲〉の特徴」について、プレゼンテーション形式で5分程度にまとめて発表すること。

#### 留意事項

- ・プレゼンテーションは、5分程度におさまるように準備をしてください。
- ・演奏、演舞（パフォーマンス）を含む発表も可能ですが、本試験会場にはピアノの準備はありません（「演奏・演舞に関する注意事項」参照）。
- ・試験室入室後、速やかに準備が行えるように備えてください。
- ・試験当日になって試験室のパソコンの使用を申し出ても使用することはできません。
- ・プレゼンテーションに必要な資料・物品（制作物、電子機器、楽譜、書籍、賞状、楽器ほか）は試験室に持ち込んで構いませんが、特に楽器は、受験者本人が持ち運びできるものとしてください。

### ■実施方法 ※試験室に入室したら、試験官の指示に従って、次のとおり進めてください。

#### <入室前>

- ・発表内容がまとめられているもの（原稿・メモ）や演奏、歌唱で使用する楽譜の持ち込みは認めます。

#### <入室から試験の流れ>

- (1) 補助員が受験番号を試験場に告げたのち、受験生は入室してください。
- (2) プレゼンテーションの準備
  - ・提示で用いる物品や楽器などは、指定された机の上に置いてください。
  - ・模造紙等の作成物を掲示して発表する場合には、室内のホワイトボードを利用し、速やかに掲示を受験者自身で行なってください。
  - ・パソコンを利用して発表する受験者は、自分の受験番号のフォルダをクリックし、発表スライドの最初のページを開いてください。
- (3) 準備完了の確認

発表準備ができたなら、試験官に準備ができた旨を伝え、試験官の指示に従って、受験番号とプレゼンテーション（発表）のタイトルを口頭で伝えてください。

#### プレゼンテーションの開始（5分程度）

試験官の「はじめてください」から試験時間をカウントします。パソコンを使用している際に機器トラブル等があった場合でも、慌てず持参した発表資料を使用しプレゼンテーションを続けてください。持ち込んだ機器等にトラブルが発生しても、プレゼンテーションの試験時間の延長等はいたしません。

#### プレゼンテーションの終了

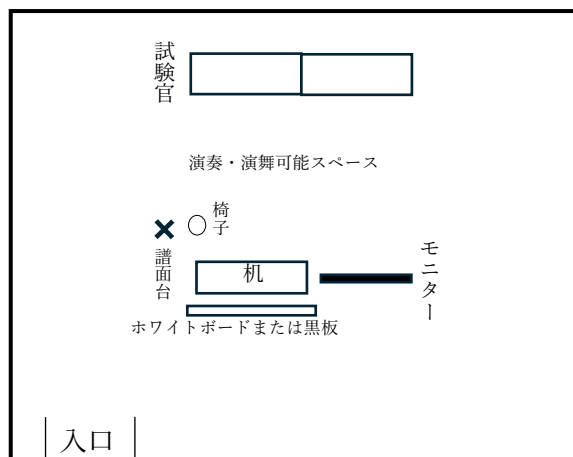
- ・5分程度を超過した場合には、合図がありますので速やかに終了してください。

- ・持参したものを速やかに片付けて、退出してください。
- ・パソコンを利用して発表する受験者は、使用したファイルを閉じた後、退出してください。

## ■実施に当たってのルール

- ・試験は下記のような教室で行います。

### 小合奏室・舞踊演習室



※電源は使用できません。

※受験生の発表内容によって試験室のレイアウトは変更になる可能性があります。

### [演奏・演舞に関する注意事項]

- ・発表中に演奏・演舞を行う場合は、途中でカットの指示を出す場合があります。
- ・演奏、歌唱による発表で使用する楽器は、コンセントから電源供給を必要とする電子機器・機材は認めません。
- ・舞踊等で伴奏音源を用いる場合には、前日に起動の確認ができた CD 音源のみ使用を認めます。
- ・地謡や共演者の同伴は認めません。大学でも用意いたしません。